

未来に繋ぐまちづくり

1. はじめに

岐阜市は、我が国のほぼ中央に位置する岐阜県の南西部、名古屋市の北西約30kmに位置する、市域面積約203.6km²、人口約41万人の中核市です。市の中央部には、織田信長公ゆかりの岐阜城を頂く金華山がそびえ、山麓には1300年の伝統を誇る鶯飼で名高い清流長良川が流れており、歴史・文化と自然に恵まれた県都として発展してきました。

近年、当市の中心市街地では、全国の地方都市と同様に、少子高齢化、地価の下落、都市部の空洞化等の問題が顕在化しており、将来に向けた都市基盤の再整備が求められてきました。

そこで「集約型都市構造」を実現し、高齢者から若者まで幅広い世代が活躍する活力あるまちづくりと、効率的な都市経営を推進するとともに、観光により交流人口を増加させるなど、将来を見据え未来に繋ぐまちづくりに取り組んでおります。

2. 集約型都市構造の実現

(1) 立地適正化計画の策定

私が市長に就任した平成14年の翌年に策定した「ぎふ躍動プラン21～岐阜市総合計画」では、人口減少と高齢化社会を見据え、拡大型から集約型へ都市構造の転換を図るため、「多様な地域核のある都市」を将来都市像としてまちづくりの方向性を示しました。これは、圏域の中核機能を担う中心市街地と、周辺の日常的なサービスが充足さ

れる地域生活圏を公共交通で結ぶものであります。

このまちづくりをさらに推進するため、平成29年3月に策定した「岐阜市立地適正化計画」は、公共交通と連携したコンパクトなまちづくりが国から評価され、全国9都市と共にコンパクト・プラス・ネットワークのモデル都市に選ばれました。

(2) 中心市街地の活性化

コンパクトで活力ある中心市街地の形成に向け、当市では、市の中心部において重点的に市街地再開発事業を展開しております。住宅や業務・商業施設などが集約された再開発ビルの連鎖的な完成により、定住人口のみならず交流人口が増加するなど、新たなにぎわいが生まれております。

また、平成27年にオープンした、図書館や市民活動交流センターなどからなる複合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は、教育や文化、市民相互の交流機能が融合した「知・文化・絆」の拠点として多くの市民の皆様にご利用いただいております。開館から2年余りで来館者数300万人を達成しようとしております。

さらに来年度は、このにぎわいの拠点の南側に、市民の皆様が開かれた新庁舎を着工の予定であり、両施設のシナジー効果によるさらなるにぎわいの創出に期待しております。

(3) 公共交通施策の推進

公共交通につきましては、国土交通大臣の認定を受けた「岐阜市総合交通戦略」に基づき取組みを進めております。計画では、市内の公共交通の

岐阜市長

ほそ え しげ みつ
細江 茂光



中心を担うバス交通について、幹線・支線バスとコミュニティバスが有機的に連携した、利便性の高い公共交通ネットワークの構築を目指しています。特に幹線について、機能強化のためBRTの導入を推進するとともに、地域の日常生活を支えるため、市民が中心となり運行する市民協働型のコミュニティバスの導入を推進しています。このような取組みが評価され、平成25年にEST交通環境大賞国土交通大臣賞を、平成27年に地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰を受賞しました。

3. 観光立市・岐阜の確立に向けて

(1) 岐阜市の魅力発信

地域の活性化に向けたもう一つの柱として、当市では、急増しているインバウンドをはじめとする国内外からの観光客の増加を図るため「観光立市・岐阜」の確立に向けた取組みを推進しており、歴史・文化と自然に育まれた地域固有の観光資源にさらに磨きをかけ、岐阜市の魅力を広くPRしているところです。

例えば、伝統ある「ぎふ長良川鵜飼」を世界に向けて発信するため、ユネスコ世界無形文化遺産登録を目指し様々な取組みを推進しております。

また1567年に織田信長公が岐阜に入城し、岐阜と命名して450年となる今年は「信長公450プロジェクト」として官民一体となり様々なイベントを開催しており「信長公ゆかりのまち・岐阜市」を全国にアピールしております。

(2) 広域幹線道路等の整備促進

このような取組みに加え、空港も港もない岐阜に国内外からの観光客を引き込むためには、鉄道や道路、とりわけ広域的な幹線道路の整備が重要であると考えております。

現在、国により整備が進められている東海環状自動車道や、2027年のリニア中央新幹線開業を控え、国際ゲートウェイとしての拠点性が一層高まっている名古屋と岐阜を直結する名岐道路など、広域幹線道路の整備促進について、国などに積極的な働きかけを行っております。

特に東海環状自動車道は、当市初のインターチェンジが設置される高速道路であり、現在、アクセス道路などの整備を県と協力して急ピッチで進めております。

この他、歴史・文化資産を保全・活用しながら、自転車と歩行者の通行分離や休憩スポットの整備などにより「市民や来訪者が散策したくなるみちづくり」も行っております。そのモデルとして「都市計画道路岐阜駅高富線（梶川工区）」では、にぎわいや魅力を創出した取組みが評価され、今年度、全建賞を受賞しました。

4. おわりに

現在は先の読めない時代ではありますが、変化に対応したまちづくりを推進するため、今後も想像力豊かな人材育成と、地域の活性化に挑み続け、持続可能な都市の構築を目指してまいります。